



正四位勲三等櫻井能監

特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲三等櫻井能監

叙從三位

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十一年五月二十一日

内閣

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

二十

裏面あり

327



在
研
中

研
中

在
科
中
勤
勞
橋
井
純
監



Handwritten text on a vertical slip of paper, possibly a label or note, with some illegible characters.

内閣書記官 五月廿一日御裁可 五月廿一日 五月廿一日

明治三十一年五月廿一日 内閣書記官

内閣總理大臣 内閣書記官長

錦鶏間祇候正四位勲三等櫻井能監ハ明治元年
五月議政官筆生ニ出身シ奉教官ニ歷任シ昨二十年
九月依病退官ノモノニテ其間社寺局長帝室制度取調
委員 先帝御事蹟取調掛 常宮御用掛等ヲ
奉務シ且明治廿七八年ノ役 大轟轟ニ扈從シ能ク其
任務ヲ盡ス等前後勲勞不サ候處目下病氣危篤
ノ趣ニ付特旨ヲ以テ位一級進メラレ然ルヘシ

内閣



錦鷄間祇候正四位勲三等櫻井能監儀別
 紙履歴書之通明治元年五月廿三日議政官
 筆生ニ出身同六年九月十四日太政官七等出
 仕ニ補セラレ爾來數官ヲ歴任シ昨三十年九
 月七日疾病ニ依リ退官セシマテ二十有餘年間
 在職其間社寺局長造神宮奉行帝室制度取
 調委員先帝御事蹟取調掛常官御用掛其他臨
 時ノ御用ニ從事シ其成績不尠就中明治廿七
 八年ノ役命ヲ奉シ大勲ニ扈從シ能ク其
 任務ヲ盡ス等終始一日ノ如ク勲勞不尠候處
 目下病氣危篤ニ迫リ候ニ付此際特旨ヲ以
 テ位一級ヲ進メラレ從三位ニ敘セラレ候様
 御詮議相成及此候及申牒也

明治三十一年五月三十一日

宮内大臣子爵田中光顯



内閣總理大臣候爵伊藤博文殿

正四位勳三等櫻井能監

本籍
現住所

明治元年五月廿三日

一御雇ヲ以テ議政官筆生被仰付候事

同 年六月十五日

一議政官書記被仰付候事

同 年九月十五日

一兼日誌司判事被仰付候事

同 年九月 日

一御東幸供奉被仰付候事

同 年四月十二日

并官口達

一御用有之至急東京へ可罷出事

宮内省

明治二年四月廿九日

一議政官書記差免日誌司判事是迄之通申付候事

同 年八月七日

一任權少史

同 年七月廿九日

一廢官

一二等出仕申付候事

太政官

同 年八月十日

一任權大主記

同 年九月廿日

一任大主記

同 年五月廿八日

一金七圓

右新曆御領行盡力ニ付爲御手當被下候事

同 六年九月十四日

一補七等出仕

同 七年二月十二日

一補左院七等出仕

同 年二月十七日

一任五等議官

同 年六月十四日

一敘正七位

同 八年四月十四日

一補七等出仕

同 年七月廿日

一補六等出仕

宮内省

明治八年九月廿二日

一任三等法制官

同 年十月廿四日

一敘從六位

同 十年一月十八日

一廢官

一任少書記官

同 年一月十九日

一法制局專務被仰付候事

大改官

同 年十一月五日

一賞勳局御用掛被仰付候事

全上

同 十一年三月六日

一兼任内務少書記官

日 年三月七日

一社寺局長申付假事

内務省

日 年六月十四日

一御巡幸御用掛被仰付假事

大政官

日 年七月三日

一御巡幸供奉被仰付假事

全上

日 年十二月十二日

一任内務権大書記官兼大政官少書記官

日 年十二月廿七日

一御巡幸供奉馬慰勞目錄之通下賜假事

宮内省旅立連

日 年十二月十四日

一兼任大政官権大書記官

宮内省

明治十二年十二月十七日

一叙正六位

日 十三年三月三日

一廢法制局

日 年三月五日

一免兼官

日 年四月十日

一御巡幸御用掛被仰付假事

大政官

日 年四月十三日

一御巡幸供奉被仰付假事

全上

日 年六月十二日

一法制部兼勤被仰付假事

全上

日 年八月三十日

御用有之日光出張申付候事 内務省

日十四年一月廿二日

神道事務局會議掛被仰付候事 左 政官

日 年二月十九日

神道會議中勉勵候三付為平當屋五坂園沼典候事 内務省

日 年三月十四日

神道事務局會議掛被免候事 左 政官

日 年六月十四日

法巡幸御用掛被仰付候事 左 上

日 年六月廿一日

御用有之左、府縣、巡回申付候事 内務省

京都府 大坂府 三重縣 和歌山縣

宮内省

明治十四年七月八日

任内務大書記官

日 年九月十二日

叙従五位

日十五年二月十四日

造神宮奉行被仰付候事 左 政官

日 年四月十一日

神宮出張并御社山見分且伴賀國敵國神社巡見申付候事 内務省

日 年六月十七日

叙勳五等

日 年八月三十日

氷川神社正遷宮祭拜トシテ出張申付候事

日 年十月十八日

内務省

一安房神社正遷座式執行ニ付出張申付候事

左 上

日 年十二月十八日

一宮内省御用掛兼勤被仰付候事

左 改官

一内規取調委員被仰付候事 宮内省

但本務ノ餘暇ヲ以テ取調可致事

日 年十二月十六日

一茨城縣下常盤神社告祭式ニ付出張申付候事

内務省

日 年五月廿三日

宮内省

一京都府出張申付候事 内務省

明治十六年十月廿五日

一任式部権頭

日 年十一月八日

一内務省御用掛兼勤被仰付候事 左 改官

日 年十一月廿二日

一兼任一等掌典

日 年十二月十八日

一宮内省御用掛兼勤被免候事 左 上

日 年三月四日

一内務省御用掛兼勤被免候事 左 上

一造神宮奉行被免候事 左 上

日 年三月廿一日

神武天皇御例祭為勅使奉向被 仰付候事

宮内省

慶光天皇御追尊奉謚為勅使御陵并光格天皇御陵、告祭奉向被 仰付候事

左 上

日 年 十月 三日

式部寮被廢

任宮内大書記官兼掌典

左 上

庶務課長被 仰付候事

日 十八年 五月 廿五日

瑞典國兼諾威國皇帝陛下ヨリ贈典シタル北極星第一等乙級勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許候事

日 年 九月 廿八日

宮内省

神宮神嘗祭勅使トシテ奉向被 仰付候事

宮内省

明治十八年九月三十日

御用有之奈良縣、被差遣候事 左 上

日 十九年 二月 四日

官制改革

日 年 二月 五日

任宮内書記官補内事課長

日 年 二月 十五日

奏任一等年俸三千圓下賜 左 上

日 年 九月

小松宮別當三宮義胤不在中同宮家事取締可相心得旨 宮内大臣口連

日 年十一月十六日

一 叙正五位

日 年十二月十六日

一 來二十年京都、行幸 行啟ニ付會計主務ヲ任ス

宮内省

日 年十二月廿一日

一 京都 行幸 行啟供奉被 仰付候事

全 上

日二十年十一月廿五日

一 叙勳四等賜旭日小綬章

日 年十二月六日

一 故前左大臣公爵島津久光葬儀御用掛被 仰付

内 閣

宮内省

明治廿一年二月廿二日

一 皇居御引移御用掛被 仰付候事 宮内省

日 年五月十六日

一 兼任小松宮別當

叙勅任官ニ等賜上级俸

日 年五月廿一日

一 叙従四位

日 年五月廿一日

一 帝室制度取調委員被 仰付候事

全 上

日 年六月廿六日

一 御降誕御用掛被 仰付候事

全 上

日 年九月廿七日

一臨時全國寶物取調委員被仰付候事

日 年十月七日

一常宮御用掛被仰付候事

日 年十二月十五日

一兼任山階宮別當 兼小松宮別當如故

日 年六月四日

一特賜年俸三千五百圓

日 年七月十八日

一技藝員撰擇委員ヲ命ス 官内省

但委細ノ旨ハ帝國博物館總長、被議スヘシ

日 年七月廿三日

一官制改定

冬般官制改定ニ付テハ従前ノ官職官等又ハ俸給ノ新官

制ニ抵觸セサル輩ハ更ニ任致ヲ要セス總テ従前ノ通ト

相心得ヘシ旨宮内大臣達

明治廿二年八月十五日

一内匠頭堤正誼不在中代理ヲ年々宮内省

日 年九月二日

一相州箱根、被差遣候事

日 年九月十八日

一依願免兼小松宮別當

一敍勅任官ニ等

日 年九月十九日

一帝室制度取調委員従前ノ通相心得ヘシ

日 年十月二日

一京都 行幸 行啟ニ付會計主務ヲ年々

日 年十月二日

日 年十月四日 宮内省

一 京都 行幸行啟供奉ノ年ス 全 上

一 京都 行幸行啟ニ付京都府慶知縣、出張ノ年ス 全 上

日 年十月十四日 御降詔御用掛被 仰付候事 全 上

一 明治廿二年八月三日勅令第百三号ノ旨ニ依リ大日 本帝國憲法發布記念章ヲ授與ス

日 年十二月十九日 任内大臣秘書官 宮内省

勅奏任官一等級賜一級俸

一 帝室制度取調掛被 仰付候事 宮内省

一 臨時左國寶物取調掛被 仰付候事 全 上

一 常宮御用掛従前、通ト相心得ヘシ 宮内大臣ニ達 明治廿三年三月廿日 京都府、出張ノ年ス 宮内省

一 造神宮奉行奉職中諸般ノ事務ヲ擔任ニ盡力 不_レ以_レ付爲其賞別紙目錄、通下賜

日 年七月十六日 目録 銅花瓶 壺對 内務省

一 皇居御造管誌編纂掛長ヲ年ス 宮内省 日 年十月廿日

一臨時帝室制度取調局ヲ廢ス

日廿四年二月廿六日

一侍從職勤務兼勤ヲ廃ス

日 年三月十八日

一皇居御造營誌編纂掛長ヲ免ス

日 年七月二日

一先帝御事蹟取調掛補助ヲ廃ス

日 年十月廿三日

一神奈川縣下 行幸供奉ヲ廃ス

日 年十二月廿二日

一官等改定

日廿五年十一月十九日

一高等官之等改正

日廿五年十一月十九日

令般達甲第六号ヲ以テ官等ノ改正アリタルモ更ニ
詳令書ヲ須ヒス新旧相對照シタル官等ニ叙セラレ
ルモノト心得ヘシ

三等

明治廿六年六月廿八日

一當分ノ内書記官當番事務補助ヲ廃ス

大臣以達

同廿七年五月廿三日

一兼任宮内書記官

叙三等

日 年七月十日

一京都、被差遣

日 年九月八日

宮内省

宮内省

大本營廣島ニ被進候ニ付供奉被仰付

日廿八年四月廿六日

故熾仁親王殿下御行實編輯委員被仰付

宮内省

日 年六月廿一日

一 敘勲三等賜瑞寶章

日 年七月廿三日

一 兼任式部官 兼宮内書記官如故

敘二等

日 年九月三十日

一 敘正四位

日 年十月三十一日

一 授旭日中綬章

宮内省

一 明治廿七八年事件ノ功ニ依リ旭日中綬章

ヲ授ケ賜フ

賞勲局
宮内省

一 持賜金貳千五百圓

明治廿八年十一月十八日

一 明治廿七八年從軍記章條例ニ依リ陸軍大臣

奏請ヲ允シ明治廿八年十月八日勅定ノ從軍記

章ヲ授與ス

賞勲局

日廿九年一月十七日

一 京都、設差遣

宮内省

日 年七月七日

一 本年六月廿九日陸軍乘馬學校、行幸ノ節

鐵道線路踏切 通御ノ旨日本鐵道會社、注意

スヘキヲ心付カサリレ殿不都合ニ付譴責ス

日三十年一月四日

宮内大臣

一外山御料牧場、被差遣

宮内省

日 年九月四日

一賜年俸參千貳百圓

全 上

日 年九月七日

一依願免本官并兼官

全 上

一常官御用掛被免

全 上

一臨時全國寶物取調掛被免

全 上

一故熾仁親王殿下御行實編輯委員被免

全 上

一先帝御事蹟取調掛補助ヲ免ス

全 上

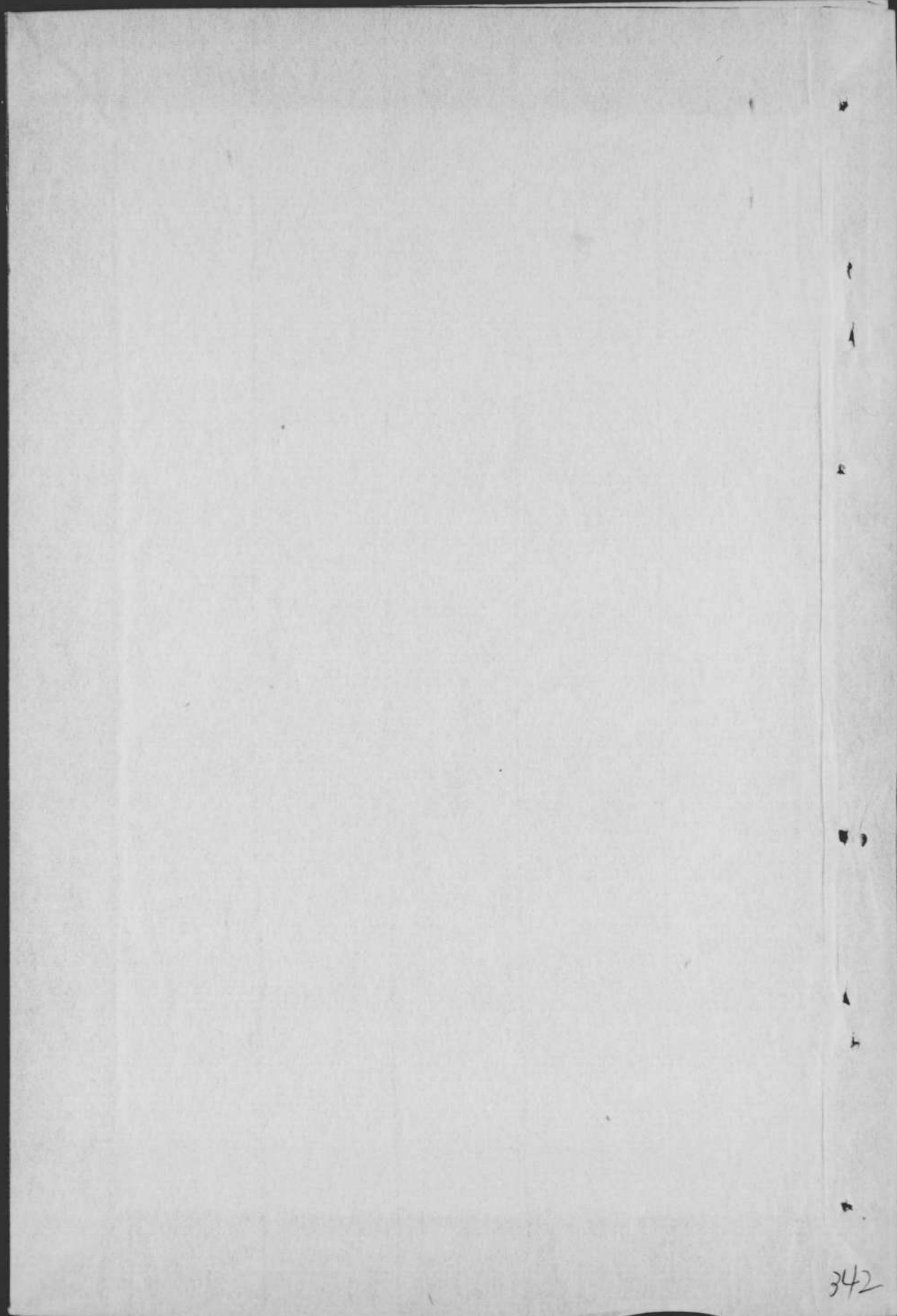
一帝室技藝負撰擇委員ヲ免ス

全 上

宮内省

一錦鷄間祇候被仰付候事

宮内省



342

